

PO21R013

2009年3月17日

女性は何故メイクをするのか 24歳以下の若い年代と、25歳以上では異なる理由

ポーラ・オルビスグループのポーラ文化研究所は、15～64歳の女性1500人を対象とするメイクに関する調査を行いました。調査からは、年代によって異なる化粧意識や行動が確認されました。

“ふだんの生活でメイクをする理由”（図表1）について、24歳以下の若年層では「自分に自信を持ちたい」が最も多く、自分自身のマインドへのプラス効果をメイクに期待していることがうかがえます。一方、25歳以上の年代では「紫外線から肌を守りたい」がメイク理由の上位にあがりました。25～29歳では第2位、30歳以上の年代では第1位の理由となっており、肌の保護といったスキンケアに近い要素もメイクに求めていることがわかりました。

また、その他の項目においても、若い年代の女性がよりポジティブな意識を持ってメイクに取り組んでいることがわかりました。

図表1 ふだんの生活でメイクをする上位理由（基数：現在メイクを行う人 1276人）

	1位	2位	3位		1位	2位	3位
15～19歳 (N=117)	自分に自信を持ちたい	周りから良く思われたい	紫外線から肌を守りたい	40～44歳 (N=130)	紫外線から肌を守りたい	TPOに合わせるため	乾燥などから肌を守りたい・自分に自信を持ちたい
20～24歳 (N=123)	自分に自信を持ちたい	TPOに合わせるため	周りから良く思われたい	45～49歳 (N=131)	紫外線から肌を守りたい	TPOに合わせるため	自分に自信を持ちたい
25～29歳 (N=135)	TPOに合わせるため	紫外線から肌を守りたい	自分に自信を持ちたい	50～54歳 (N=136)	紫外線から肌を守りたい	TPOに合わせるため	自分に自信を持ちたい
30～34歳 (N=134)	紫外線から肌を守りたい	TPOに合わせるため	自分に自信を持ちたい	55～59歳 (N=127)	紫外線から肌を守りたい	TPOに合わせるため	気持ちを变えたい
35～39歳 (N=123)	紫外線から肌を守りたい	TPOに合わせるため	自分に自信を持ちたい	60～64歳 (N=120)	紫外線から肌を守りたい	TPOに合わせるため・乾燥などから肌を守りたい	気持ちを变えたい

ポーラ文化研究所は、1970年代より現代女性の美意識や化粧行動などについて調査研究を行い、CSR活動の一環として研究成果を広く社会へ発信しています。このような調査研究の結果をもとに、今年創業80周年を迎えるポーラは、現代女性のニーズや意識に合ったサービスを提供してまいります。

本リリースの詳細レポートは、[ポーラ文化研究所ホームページ](http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunken/report/index.html)にてご覧いただけます。
ホームページ：<http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunken/report/index.html>

【リリースに関するお問い合わせ】

グループ広報室 Tel 03-3494-7123 Fax 03-3494-7640

【調査内容に関するお問い合わせ】

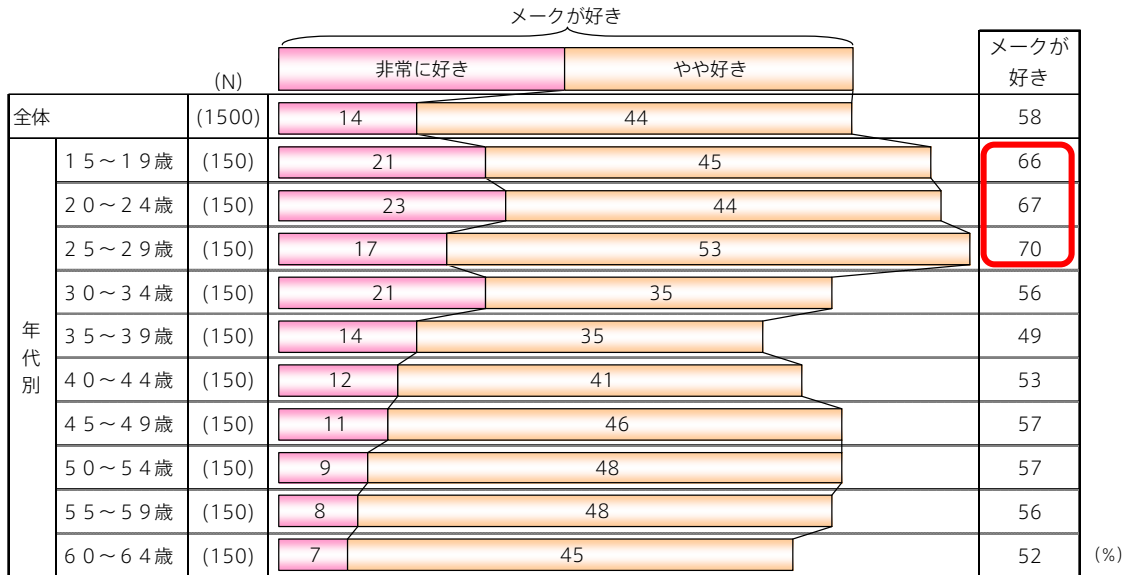
ポーラ文化研究所 Tel 03-5795-0941 Fax 03-3280-8891

ポーラ・オルビスグループは、「世界中の人々に笑顔と感動をお届けしたい」を理念に、化粧品会社7社をはじめとする25社で構成される企業グループです。

若い女性は特にメイクが好き

メイクを行うことが好きな人がどの程度いるか調べたところ、女性全体の約6割が「メイクが好き」（非常に好き+やや好き）でした。29歳以下の若年層では「メイクが好き」が約7割に達し、特に多く、若い女性はメイクに対してポジティブな意識を抱いているとかがえます。

図表2 メイクを行うことへの好意度（基数：対象者全員 1500人）

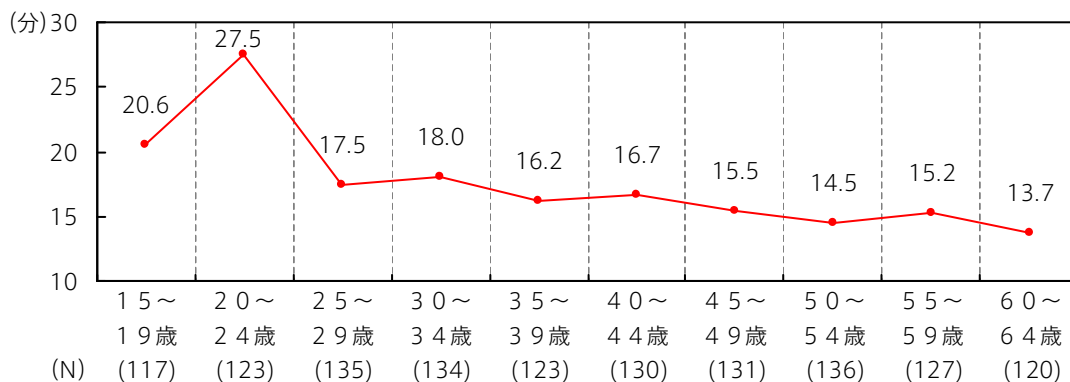


若い女性はしっかり時間をかけてメイク

女性がメイクにかかる平均所要時間をみると、メイクを行う人全体では、平均17.5分でした。年代別にみると、15～19歳では平均20.6分、20～24歳では平均27.5分となっており、24歳以下の若年層のメイク平均所要時間は全体平均を越えています。若い女性の多くは、しっかり時間をかけてメイクをしているとみられます。

また、本調査からはメイク所要時間が長い人は、使っているメイクアイテムの数が多く（例：メイク所要時間5分以下の人は、使用アイテム数の平均が9個であるが、31分以上の人は平均16個）、ファンデーションやリップメイクだけでなく、アイライナーやマスカラといったアイメイクも行う人が多いこともわかりました。

図表3 メイク平均所要時間（基数：メイクを行う人 1276人）



TOPICS

学生のメイク状況について

学生では、メイクを行わなければならない環境にいる人が少なく、毎日メイクを行っている人は有職者のスコアを下回っています。

しかしメイクを行っている学生で見ると、メイク平均所要時間や使用メイクアイテムの種類が、有職者・専業主婦のスコアを上回っています。可処分所得の違いから化粧品への平均投資金額は低いものの、学生はメイクが好きな人が多く、ポジティブな意識でメイクを行っていることがわかりました。メイクをしている女性で、最も熱心にメイクに取り組んでいるのは、実は学生なのかもしれません。

メイクを行わなければならない環境にいる人 基数：対象者全員

学生 35% **有職者 58%** 専業主婦 24% (対象者全体 41%)

メイクを毎日行っている人 基数：対象者全員

学生 61% **有職者 73%** 専業主婦 55% (対象者全体 64%)

1ヶ月のメイクアイテム平均投資金額（中央値） 基数：メイクを行う人

学生 1250円 有職者 2250円 専業主婦 2250円 (メイクを行う人全体 2250円)

メイク平均所要時間 基数：メイクを行う人全員

学生 21.9分 有職者 17.4分 専業主婦 16.3分 (メイクを行う人全体 17.5分)

朝のメイクで使うメイクアイテムの平均種類数 基数：メイクを行う人

学生 7.2種類 **有職者 7.0種類** 専業主婦 6.4種類 (メイクを行う人全体 6.8種類)

メイクが好きな人 基数：対象者全員

学生 65% **有職者 59%** 専業主婦 57% (対象者全体 58%)

※基数：対象者全員 1500人 ※うち、学生 172人、有職者 703人、専業主婦 563人

※基数：メイクを行う人 1276人 ※うち、学生 134人、有職者 626人、専業主婦 478人

【調査実施概要】

調査名：女性の化粧行動・意識に関する実態調査～メイク篇 2008～

調査時期：2008年8月 調査方法：インターネット調査

調査対象：首都圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)に居住する15～64歳の女性1500人

(15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳、60～64歳：各150人)※中学生を除く